

人も生き物も住みやすい街づくりのために



昔の東京の川や海

1970年ごろの東京の川や海の様子です。

写真3点提供：東京都環境局



川にうかぶごみ



川にただようあわ



海にただようあわ

[東京都環境局のホームページ](#) [「写真集 水質汚濁」](#) [ここをクリック](#)

- 昔の東京の川や海の様子を見て、気付いたことを話し合ってみましょう。
- この川や海で、生き物は生きることができるでしょうか。

げんざいでは、家庭や工場から出たよごれた水は、水さい生センターできれいな水となって川に返されており、きれいな川がよみがえっています。



写真提供：東京都下水道局

☆もっと調べてみよう☆



- [東京都環境局のホームページ](#) [「気をつけて！危険な外来生物（こども学習サイト）」](#) [ここをクリック](#)
- [東京都建設局のホームページ](#) [「井の頭恩賜公園」](#) [ここをクリック](#)
- [東京都下水道局のホームページ](#) [「下水道アドベンチャー」](#) [ここをクリック](#)

消えたはずの生き物がふっ活した

東京都にある井の頭公園の池では、池の水をきれいにする「かいぼり*」を計画的に行っています。平成25（2013）年度・平成27（2015）年度・平成29（2017）年度に行われたかいぼりでは、オオクチバス（ブラックバス）、ソウギョなどの多数の外来種をとりのぞきました。その結果、クロダハゼやエビ類などのざい来の水生生物もふえ、それらをエサにして子育てをする水鳥も、もどってきました。また、かいぼりにより、それまでにごっていた水のとう明度もまし、池の水しつも改ぜんされました。

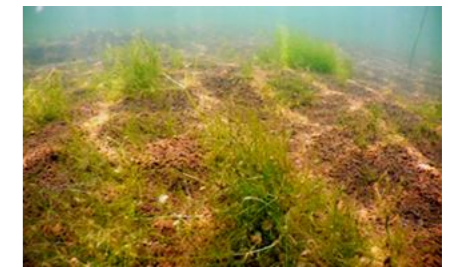
2016年には井の頭公園の池でぜつめつしたと思われていた日本固有の水草「イノカシラフラスコモ」が、池底から発芽し、ふっ活しているのがかくにんされました。



かいぼりの様子



小魚をあたえる親鳥



池底のイノカシラフラスコモ

写真3点無許可転載不可

*「かいぼり」では、①～⑥をします

- ①池の水をぬく→
- ②生き物をとる→
- ③生き物をざい来種と外来種に分ける→
- ④池底をほす→
- ⑤池に水を入れる →
- ⑥ざい来種をもどす

◇考えてみよう

- 生き物がすみやすい場所とは、どういう場所でしょうか。
- 生き物が住みやすい街にするために、自分ができることはどんなことでしょうか。

